

川崎支部便り 第71号 (2024年02月)

オープンで各自が主役：川崎支部

川崎支部支部長 山岸一雄 (執筆：山岸))

人生を豊かに (雑学のすすめ)

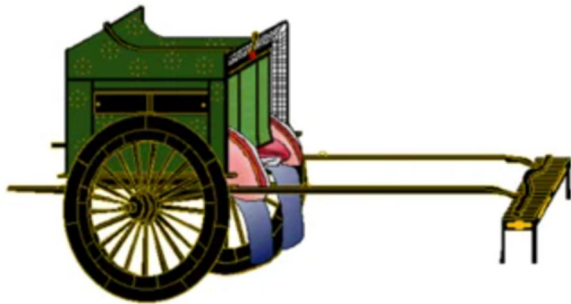
【垣間見る「出衣」「打出」「押し」とは？】

「源氏物語」が描かれた時代、貴公子らが女性にじかに対面出来るのは、親、兄弟のほかは、夫または恋人だけであり、そのため、まだ恋人になっていない男性が女性の邸を訪ねても、御簾屋記帳などを隔てて容姿を見ることなく話をする(女房がとりつぐ)ことになります。

それでは男性はなににもとづいて、女性の好みを判断したのか、という疑問がわきます。その様な状況では、女性の側は裾の重なりや袖の一部を御簾などの外へ出して、自らの衣装の美しさを垣間見せたのです。そのことを「出衣(いだしぎぬ)」「打出(うちいで)」「押し(おしいで)」といいます。

「出衣」は牛車で外出する際に、車にかけた簾の裾から袖などの衣装の一部を出して、まるで牛車を飾る様にするのです(出車ともいう)。また、宮中などの行事に招かれた際に、御簾の内側に座して、裾の一部を外に出しておくことを「打出」といい、袖の一部を出すことを「押し」といいます。あるいは、「打出」は御簾に対して横向きに座り、袖と褌(つま)を出してみせ、「押し」は正面向きに座って御簾から袖のみをだすという説もあります。

高貴な女性は、自邸でもくつろいでいるおりに、几帳や御簾のうしろにいて、外から容易に見られない様になっています。そうしたときに、御簾や几帳のすみに女性の衣装の襲(かさね)の色目が打出されていて、その色相が今の季節にふさわしい色襲(いろがさね)であれば、男性らはセンスのいい女(ひと)と想像して文(ふみ)を出して交際の手立てがとられるのです。



(出衣)



(打出)



(「源氏物語」の色辞典 吉岡幸雄 紫紅社より)

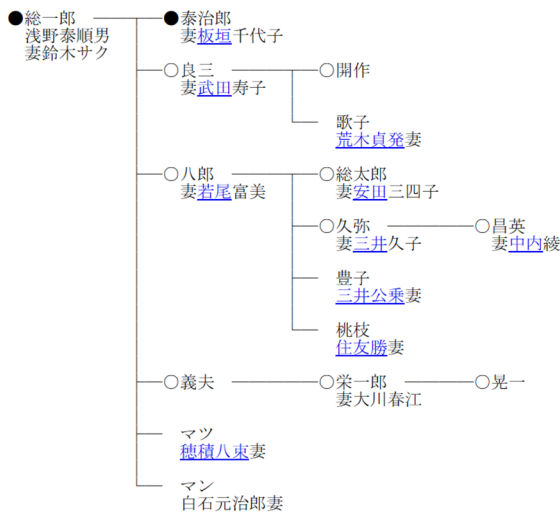
川崎点描：川崎支部活動拠点

【かわさきゆかりの人③－浅野総一郎】

(廃品利用の損一郎?) (参考：東 秀紀氏 浅野総一郎と京浜工業地帯)

浅野総一郎は 1948 年(嘉永元年)、現在の富山県氷見(ひみ)市で町医者の子供として生まれました。医者を継ぐのが嫌だった総一郎は、若い頃から加賀の豪商銭屋五兵衛に憧れて商人を目指しました。この様な大志を抱く人間に、幕末とはいえ古い秩序の残っている富山の一地方でささやかで安定した衣装を送ることは望むことではありませんでした。総一郎は、織機業、醤油醸造、稲扱(こ)機販売業と、次々に新しい商売に手を出しますが、すぐ夢が広がりすぎて、ことごとく失敗して養家から追い出されました。「総一郎ではなく損一郎」と呼ばれたのです。

浅野財閥、浅野セメント(太平洋セメント)創業者。



(浅野総一郎)

(夜逃げの総一郎)

富山から夜逃げした総一郎には、商売を始めようにも、元手が有りません。そこで、農家で捨てている竹の皮を仕入れて、ものを包む容器として売る商売を始めました。総一郎にとっては初めての商売の成功でした。総一郎は竹の皮から薪炭へと扱い品目を増やしたころ目にとめたのは、石炭を納めている役所や工場で見た処理に困って山積みにし、穴を掘って埋めていた石炭の廃物であるコークスやコールドールです。竹の皮で得た「世の中に不要なものはない」という教訓を生かし、技術者を雇って検討を

加え、コークスを燃料として再利用や、コールタールから石炭酸を取り出して、**コレラの消毒薬**にして販売することに成功しました。かつての損一郎は、「**廃品利用の天才**」と呼ばれ、**資源のリサイクル**の先駆者になりました。

王子製紙の工場からコークスを引き取ったことがご縁で、総一郎はそこで社長をしていた**渋沢栄一**の家に招かれました。当時渋沢は大蔵省を辞職して野に下り、実業界の向上・発展に専心していました。渋沢は第一銀行や手形交換所は、近代化に重要な事業であるとともに、**日本橋**をベニスのような水の都として**金融の中心地**としたい都市づくりの一環でした。渋沢の民間人として**長期的視野で進む渋沢**に強い感銘を受けた総一郎は、東京ガスの創立や三菱と争って敗れた**丸の内地区の払い下げ**、そして**東京湾埋立**等の数多くの事業に関係することになったのです。

一方渋沢は、**豪放な性格の総一郎**に、自分にはない工業経営の実務的才能を見て、友人として魅力を感じていきました。ものづくりの精神こそが、大きな夢を描きながら、長期間知恵を絞って努力し、従業員と共に一心に働く総一郎の資質に近いものでした。数多い渋沢に事業の内、今も残るのは、セメント、電機、鉄鋼、造船といった工業が多いのです。

(赤猫とセメント)

総一郎が最初に取り組んだ工業は、セメントでした。当時、工部省の深川セメント工場は、大量の赤字を出して操業停止になっていましたが、総一郎は渋沢にこの「廃品」の払い下げの口をきいてくれることを頼みました。セメント事業の将来性に疑問を呈した渋沢に、総一郎は東京に出てきた頃聞いた「赤猫」という言葉の説明をしました。「**赤猫**」が**江戸の名物である火事の意味**と知り、総一郎は建築の不燃化で東京を安全な都市に出来ないかと痛切に思ったのです。東京の**最初の本格的都市計画である「市区改正」の審査会委員**を務め、その重要な使命が防災であると認識していた渋沢は、この言葉に強く動かされ、払い下げは実現しました。競争相手の三井や三菱はセメント事業ではなく、不動産事業として申請していました。

総一郎は払い下げが成功すると、**工場の一角に家族で引越して**、毎朝従業員を門で出迎え、一日中彼らと一緒に身を粉にして働きました。単に土地の有効利用だけでなく、実際に事業を起こす「実業」の姿勢は、後の**京浜埋立**にも引き継がれました。

(勤儉堂主人と京浜埋立事業)

セメント会社の資金援助を頼んだことから、総一郎はもう一人の経営上の師に出会いました。それが「**勤儉堂主人**」と称して**吝嗇漢**を自認し、**寄付はしない**ことで有名であった**銀行家安田善次郎**です。彼は富士銀行（現：みずほ銀行）、安田火災（現：損保ジャパン）等の創始者の一人ですが、「寄付すれば男爵にする」と政府から言われた時も、即座に断ったそうです。しかし、安田は官の圧力で理念のないもの寄付するのは大嫌いでしたが、**社会的に意義がある大きな夢には、惜しげもなく金を注ぎ込む合理主義者**でした。その安田が見込んで、「資金が丸潰れになっても悔いはない」と徹底的に援助したのが、後藤新平の**東京改造計画**と、総一郎の**京浜埋立事業**でした。総一郎は、渋沢ほど高い社会的理念を持っていたわけではなく、安田の様な蓄財の才能が有ったわけではありません。大きな夢に邁進することで事業を成功させる才能とエネルギーが有りました。



(安田善次郎)

(ロンドンのドッグランズと防波堤)

総一郎は欧米の海軍事情の視察に出かけ、欧米の港湾、とりわけ**ロンドンのドッグランズ港の壮さ**に動かされました。帰国後の1897(明治30)年、総一郎の構想は大型船停泊が可能な横浜港の改築と東京湾の新設でした。ユニークな点は、単に港だけではなく、その**両港を結ぶ航路の沖合に防波堤**を建設し、堤と陸地の間の海底を掘削して、**大型船の運河を建設**することです。海外から横浜に運び込まれる貨物は、舢(はしけ)で消費地の東京に海上輸送されていましたが、輸送費も膨大で、防波堤が無く**海難事故が多発**していました。

総一郎は品川沖21万坪の埋立を東京府に申請しましたが、10年以上に渡る数度の申請は「こうした大規模な事業は民間に行わせるべきではない」と握り潰されました。そこで、総一郎は安田と共に多摩川から鶴見川までの延長4500mの地帯を調査しました。この時安田はすでに80歳に近かったのですが、川崎の海辺の宿屋に3日3晩泊まり込み、朝は6時に海岸へ出て潮の引き具合を調べ、夕刻5時から60歳の総一郎と一緒に釣り船に乗って魚を釣りながら、**潮の満ちる様子を観察**したそうです。

1908(明治41)年、総一郎は安田善次郎、渋沢栄一らと**鶴見埋立組合を設立**、この地に150万坪(495ヘクタール)の埋立を行うことを出願しました。神奈川県の免許が下りて着工したのは、その2年後でした。**当時は荒れ果てた海岸**でしかなかった**京浜臨海部**が、やがて**世界的な工業の中心**になることを、総一郎は見通していたのでしょう。

(東亜建設工業とJFEスチール)

総一郎の開発の特徴は、単に埋立地を分譲して不動産事業として儲けるだけでなく、土地の半分ぐらいは工業を中心とした事業展開につなげました。**埋立の為の建設会社を自前で作り**、総一郎が経営に関係した電力、ガス、電機、鉄鋼、造船等の工場を、その埋立地や隣接地に立地しました。もっとも代表的なのは、総一郎の**女婿である白石元治郎**が、岳父の支援の下、**民間による製鉄**を目的として、1912(明治45)年に設立した**日本鋼管(現：JFEスチール)**です。

(南武線と浅野総一郎)

交通では、物流と従業員の通勤の為に鉄道を敷き、現在の**JR鶴見線の駅名が「浅野」や「安善」(安田善次郎)「武蔵白石」(白石元治郎)「扇町」(扇は浅野の家紋)**等京浜埋立の功労者達にちなんでいるのは、その名残です。この他、臨海部と内陸部を結ぶ南武鉄道(現在のJR南武線)や、品川と横浜を結び、京浜地区を南北に縦断する京浜急行の経営にも参加しました。更に、総一郎は労働者の為の病院・住宅を建設し、京浜工業地帯を見下ろす子安の高台に、技術者を養成し、**公立学校より授業料の安い教育機関**として、現在の**浅野学園を創立**しました。晩年には、京浜地域があまりに生産機能に偏重し

たことを反省し、川崎を当時の浅草の様な盛り場にしようと、100万坪の大遊園地や、宝塚の様な女優の学校を持つ劇場、レストラン、実用品ばかりを売る百貨店等を計画していたそうです。

(食道癌と事業の鬼)

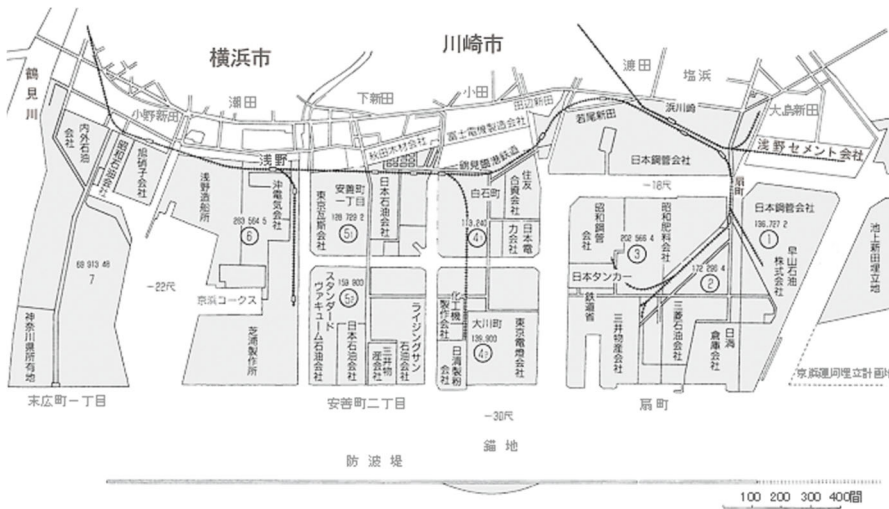
総一郎が80歳の時、千葉沖で新たな埋立を行おうと計画していましたが、昭和初期のニューヨークの株価大暴落の影響で京浜の埋め立て地も大量に売れ残りました。積極経営で有名な金子直吉率いる鈴木商店も倒産したので、息子たちは総一郎を経営から引き離す為、1930(昭和5)年5月、欧米諸国視察の旅に出すことにしました。

新事業への充電のつもりで出発した総一郎が病の床に就き、急遽帰国したのは、わずかその3か月後です。食道癌という診断を聞き、「それは大変だ。仕事を急がねばならぬ」と、今後の事業構想を病床で秘書に記録させながら、同年11月に83歳で亡くなりました。まさに死の日まで総一郎は「事業の鬼」でした。総一郎の告別式は、田町の邸内に有る「紫雲閣」(東京帝国大学建築学科教授伊東忠太設計)で行われました。この紫雲閣は「田町御殿」と言われていましたが、実は来日する外国人の宿泊用に開放して、総一郎自身は一度も寝起きしたことが無かったのです。告別式が、総一郎にとって、この建物で過ごした最初で最後の夜になりました。

現在必要とされているのは、先人達のそうした長期的視野に立つ民間の精神なのでしょう。



(東京湾埋立株式会社計画平面図)(大正12年6月)



鶴見・川崎地先埋立図 大正14年ころ
東亜建設工業「東京湾埋立物語」から



鶴見臨港鉄道浅野駅 大正14年
鶴見臨港鉄道株式会社蔵

(画像は Yahoo Japan から引用)

支部の活動

- ① 2024.02.10 (月) 「お茶とおいしいケーキの交流会」 14時50分に二子玉川駅改札口に集合
・お茶とケーキはご自分でお支払い願います。但し、支援金1,000円をお渡しします。
- ② 2024.02.24 (土) ミステリーツアー (日吉防空壕保存会の現地見学と説明)
・13時20分に日吉駅改札口 (東急東横線) に集合
・日吉防空壕保存会への申込金1,000円。但し、支援金1,000円をお渡しします。
- ③ 2024.03.02 (土) 第25回講演会 (幼児の発達を理解するー紺野准教授) (世田谷キャンパス 1号館3階 13Q教室) ・14時~15時30分
- ④ 2024.03.16 (土) お花見 (砧公園を予定):
・参加費: 1,500円 (無料: お弁当 1,500円程度、日本酒・焼酎・お茶等)。
お子様の参加もお待ちしております。

ご存じですか

【こどもへの哲学】

最近、**思いやりやさしさについての違い**で、興味ある会話に出会いました。大事なのは、人が何か困ったらその**困難を除く事**であって、それに**思いやりが伴っているか**では無いそうです。たとえ気が進まなくても、しぶしぶでも、そうすべきことなのだそうです。すべき事が何時でも出来るとは限りません。**大切なのは、他人の立場からも物事を見ることで、想像力が必要**になります。自分のすることが人にとっては、どの様な子になるかを見極めて、人との関係を築き上げることが作法 (マナー) なのです。つまり作法の本質が**他人への配慮**となります。

でも、この配慮とやさしさとは異なります。優しさは必要ですが、心からのやさしさは、自分から望んだことで、仮に相手に何の役に立たないとしても、この**やさしさは誰にもそれを要求したり、強制することが出来ないから素晴らしい**のです。注意することはその**表現の仕方**で、やさしさ

をあまり追及するとニセモノに見えたり、目立ちがりやでお節介に思われてしまうことです。逆に意識しないようにすると、相手の大事なことまで手抜きになりがちです。

結果として、「人にやさしく出来ない人間」なら、その人生は欠陥が有ります。人との関係で自分がしたことは、自分の心の中にも何かを残します。他人はどうしてもいいと手抜きの行動をすると、手抜きの習慣が出来ます。自己イメージも人間らしい感情も、はっきりと変わり行動に影響します。相手の手助けが出来るのにその様にしないのは、ある時からあまりに自己中心に考えてきたからで、自分の行動で自然に相手に接すれば、他人に手抜きをしないで考えての行動が、今の思いや感情が豊かだからでしょう。

次号もお楽しみに。皆様のご意見・ご感想をお待ちしています。

問合せ・連絡先：川崎支部 幹事長 松本浩一

TEL：090-9363-6082 E-mail：kawa_matsu51@v00.itscom.net